

躍進の音

~If you can dream it, you can do it.~



木津川市立木津第二中学校

学校だより11月号

令和7年10月31日

【めざす生徒像】

『友愛』 他人に思いやりを持ち、ともに高め合う生徒

【社会の創り手となる生徒の育成】

『礼節』 礼儀と節度を守る生徒

【他者を価値のある存在として尊重できる生徒の育成】

『協力』 力を合わせ、よい校風をつくる生徒

【多様な人々と協働できる生徒の育成】

【学校教育目標】

生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力を育み、社会の作り手となる生徒を育成する。



10月23日(木)、さわやかな秋晴れの下、第40回木津第二中学校体育大会を無事終えることができました。生徒達は持っている力を精一杯発揮しながら競技を行いました。

中学3年生にとっては中学校生活最後の体育大会でしたが、取組の期間中も常に1・2年生をリードしながら、最高学年としての素晴らしい姿を見せてくれました。1・2年生はこの良い伝統を受け継ぎながら、さらに発展させていってくれることと思います。

保護者並びに地域の皆様には、朝早くから来場いただき、温かいご声援を送ってくださりまして、誠にありがとうございました。また、大会の取組期間中、体操服の洗濯やお茶の準備等にご協力いただきまして、心より感謝申し上げます。今後とも引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

2025年のノーベル生理学・医学賞に大阪大学特任教授坂口志文氏(74)、ノーベル化学賞に京都大学特別教授北川進氏(74)が選ばれました。日本にとっては30回目、31回目の受賞となりました。

坂口教授は、ウイルスなどの外敵から体を守る仕組みである免疫が、自分自身を誤って過剰に攻撃することにブレーキをかける「制御性T細胞」を発見しました。リウマチや1型糖尿病などの自己免疫疾患やがん治療などへの幅広い応用が期待されています。

北川教授は、二酸化炭素などの気体を自由に分離して貯蔵する金属有機構造体(MOF)を研究されています。MOFはナノメートルの微細孔がある新素材で、二酸化炭素回収、水素貯蔵、水吸着など気候変動への対応とクリーンエネルギー分野で活用される可能性が高いとされています。

ノーベルとはもともと人の名前です。350もの特許を取得した偉人で、ダイナマイトが彼の代表的な発明品です。元来ダイナマイトは、建設や掘削作業をスピーディーに進めるために発明されたものです。しかし、戦争で人を殺す兵器として使用されたため、人々からの評判は決してよいものではありませんでした。そこで彼は、ダイナマイトの発明で得た巨額な財産を「人類の福祉に貢献した人々に与える」という遺言を残しました。このことがきっかけでノーベル賞が始まったのです。今やノーベル賞は、物理学、化学、生理学・医学、文学、経済学、そして平和の各分野で「人類に最大の貢献をもたらした人々」に贈られる世界で最も権威のある賞となりました。

2024年には日本原水爆被害者団体協議会が、核兵器のない世界の実現に長年にわたって努力し、核兵器が二度と使われてはならないことを証言を通じて示してきたこと、また並外れた努力が核のタブーの確立に大きく貢献したことに対して、ノーベル平和賞を受賞しています。代表委員の田中熙巳さんは、受賞演説で「人類が核兵器で自滅することのないよう、核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて、ともに頑張りましょう」と訴えました。

受賞のニュースは、科学や文学、経済といった分野への人々の関心を高め、知識や探究心を刺激します。また、次世代の教育にも大きな影響を与えます。そして、平和賞の受賞は、戦争や紛争といった地球全体の課題に対する人々の意識を高めます。今回の受賞が少しでも人類の進歩につながればと願うばかりです。



木津二中にも本格的な秋が近づいています